

授業科目名	<b>教職論</b>				
担当教員名	大槻雅俊				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立小学校長として教員に対する指導助言や小中連携の教育活動に携わる。また地域の3つの中学校評議員として中学校教育の推進・運営に携わる。(全15回)				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

教育は教員の人間性や専門性などが大きく関わっており、それゆえ「教育は人なり」といわれています。本授業では、教職の意義や教員の役割、教員をとりまく様々な事象を考察し、今日求められている教員の職務内容について理解するとともに、教員としての人間性、資質・能力などの素地を高め、自覚・責任感をもって進路選択ができるようにします。授業では今日的な教育諸課題について教育現場の具体的な事象や教育関連法規などを取上げて進めていきます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

教師としての基礎的・基本的な資質に関する知識

#### 目標：

児童・生徒の育成を目指す教員として学習指導、服務などに関する基礎的知識を身につけることができる。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

学校現場の現状を見据え、教師を取り巻く課題を見出す力を養うことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ成績評価を「-」（評価しない）とします。レポートなどの提出については指示された期日を厳守してください。期日を過ぎた場合は受け付けられないこともあります。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

レポート	50%	： 内容の妥当性と論理構成などの観点から、独自のルーブリックに基づいて評価をします。
授業内課題（ミニレポート）	30%	： 教師としての基礎的資質に関して、独自のルーブリックに基づいて評価をします。知識理解と内容構成及び表現力の観点から評価します。
毎時の学習状況や受講態度	20%	： 提出物、内容の理解度、学習に対する積極性、貢献度等についてチェックリストを活用して評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

広岡義之 編著『はじめて学ぶ教職論』ミネルヴァ書房2017年  
山口健二・高瀬淳 編『教職論ハンドブック』ミネルヴァ書房2011年  
教職問題研究会編『教職論（第2版）教員を志すすべてのひとへ』ミネルヴァ書房2009年  
ほか、適宜授業で紹介いたします。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。通常の講義形式で行うが、適宜グループワークなど、実践的なワークを取り入れる予定である。映像資料を用いることもある。授業計画はあくまでも参加者や状況が確定する以前の計画にすぎないので、参加者個々の能力や置かれている状況等により変化した形に対応することもあ。毎回の授業の瞬間を大切に、本授業が学習者各人に最適なものとなるよう、ともに学びの場を作っていくたい。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日 4限

場所： 西館4階個人研究室

備考・注意事項： オフィスアワーは水曜日、4限ですが、そのほか研究室在室中はいつでも質問等可能です。

授業計画		授業外学修課題にかかるとする目安の時間
第1回	<p><b>オリエンテーションと教職の意義</b></p> <p>授業の受け方や提出物等の出し方などを理解するとともに、教職について学ぶことの意義を理解し今後の授業の見通しを把握する。</p>	4時間
第2回	<p><b>学校教育の現状と課題</b></p> <p>教員の定年による大量退職と若手教員の増加、少子化問題による学校数・学級数の減少化、学力問題、いじめ、非行、暴力などについて知る。</p>	4時間
第3回	<p><b>教職についての社会の見方</b></p> <p>教員の失態は社会で問題になりやすい。言動や身なり、教養、博識など人々の教員の捉えかたについて理解する。</p>	4時間
第4回	<p><b>求められる教員の資質能力(1)ー教員としての人間性ー(現場教員へのインタビューVTRの視聴)</b></p> <p>教員として授業ができる基礎知識、児童・生徒や保護者などを受け入れる受容的な態度などを身につけた豊かな人間性について理解する。</p>	4時間
第5回	<p><b>求められる教員の資質能力(2)ー教師の能力ー(現場教員へのインタビューVTRの視聴)</b></p> <p>教員は授業が勝負であると言われ、ひとり一人の児童・生徒に応じた授業ができることは教員にとって必須である。このような趣旨を踏まえ、授業力とは何か、また児童・生徒の育成に間接的にかかわる事務処理能力、交渉能力・対応能力などについて理解する。</p>	4時間
第6回	<p><b>教職員の種類と資格</b></p> <p>教員の免許や資格について、その種類や職務内容そして取得に必要な履修科目等について理解するとともに教員以外の職員の職務についても知る。</p>	4時間
第7回	<p><b>教員の身分保障</b></p> <p>教員の出勤時刻や退勤時刻、および問題対応の時間などと労働基準法との関係について知り、勤務条件と実際の勤務および服務について理解する。</p>	4時間
第8回	<p><b>教員研修と向上心(指導体制の充実のための研修)</b></p> <p>教員の研修はかならず取り組まなければならないことである。研修は義務としての研修と自己向上のための研修に大別でき、それぞれ具体的な事柄を取上げる。研修は教員にとって重要であることを理解する。</p>	4時間
第9回	<p><b>教員の力量と学習指導</b></p> <p>小学校の全科、中学校の専門教科(家庭科、国語科)など教科指導の進め方、そして児童・生徒の実態を理解しながら授業を展開することを理解し、教員の力量を向上させることの大切さを理解する。</p>	4時間
第10回	<p><b>教員の力量と校務(校長を中心とした校内組織と補佐)</b></p> <p>校務は学校に在籍する教職員で分担して運営される。校務分掌の内容と学校組織について知り、教務、研究、生活指導をはじめ種々の校務があることと、校務を担ううえでの個人の適性について理解する。</p>	4時間
第11回	<p><b>校務分掌とその実際</b></p> <p>校務分掌の内容について、学校運営上必要である教務、研究、生活指導、保健などの実際の様子や課題を理解する。</p>	4時間
第12回	<p><b>学校外の職務と教員の関わり</b></p> <p>地方の教育行政(区役所イベントなど)、警察署、消防署、医師会、青少年指導委員会などと学校の職務との関連について知り、児童・生徒の健全育成にとって相互協力が重要であること、教員のかかわりについて理解する。</p>	4時間
第13回	<p><b>学校、家庭、地域の連携と教員の関わり(チーム学校運営への対応)</b></p> <p>地域の学校という意識、地域の連合組織と学校・教員の関連、地域の一員である家庭について知り、児童・生徒の健全育成にとって相互連携が必要であることを理解する。</p>	4時間
第14回	<p><b>教員をめぐる事件・事故</b></p> <p>不審者侵入、交通事故、学校事故などの学校安全管理や飲酒運転、セクハラなど教職員の不祥事や事案が起こる背景について知り、教職員のあるべき姿について理解する。</p>	4時間
第15回	<p><b>まとめと授業全体の振り返り</b></p>	4時間

教員として教育現場に赴く際、一人ひとりの児童・生徒への深い愛情と理解にもとづき、熱意をもって指導にあたれる理想としての教員像を描くことができるようにする。さらに自己教  
育力を磨き高めるうえで、自己の課題を捉えることができる。

---

911

授業科目名	<b>教育学</b>				
担当教員名	榎原志保				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

**授業概要**

学校教育に携わる専門職に求められる教育の基礎理論として、教育の理念ならびに教育に関する歴史および思想、社会的、制度的事項、学校と地域との連携並びに学校安全への対応に関する基礎的事項を学ぶ。今日におけるわが国の教育を成り立たせている教育の思想や歴史、制度、また、その土台にある理念・目的を理解し、それを踏まえて自己の「教育」理解を問い直し、視野を広げ、深めるとともに、現代社会における教育課題や教員としての役割や使命、責任についての認識と考えを深める。

**養うべき力と到達目標**

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育に関する理念、歴史及び思想の理解	教育の基本的概念や理念が、教育の歴史や思想においてどのように現れてきたか、また、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解できる。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育制度、学校と地域との連携、学校安全への対応に関する理解	現代の学校教育に関する社会的、制度的事項ならびに学校と地域との連携や学校安全への対応に関する基礎的知識を身につけるとともに、その課題を理解できる。
汎用的な力		
1．DP8. 意思疎通		教育に関する他者の意見や主張を丁寧に聴き、正確に把握することができ、また、自分の意見や主張を、文章や口頭発表をとおして、分かりやすく正確に伝えることができる。
2．DP4. 課題発見		現代社会における教育をめぐる諸課題について、自分なりの問題意識をもつことができる。

**学外連携学修**

無し

**授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）**

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価****注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

**成績評価の方法・評価の割合****評価の基準**

各回授業内で提出する小レポート	30%	： 授業内容を踏まえた論述ができていれば2点とし、理解の誤りや不足があれば1点とする。これを15回分実施。
授業外学修課題	15%	： 授業外学修課題への取り組みを、理解度や課題意識を重視して評価する。
授業内小テスト	30%	： 学期中に3回小テストを行い、語句や基本的事項の理解度を確認する。
学修のまとめレポート	25%	： 学修成果のまとめとして、授業内容を踏まえての自己の教育理解について論述する。1. 授業内容の正確な理解、2. 論述の説得力の観点から評価する。

**使用教科書**

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
新井郁男・牧 昌見 編著	教育学基礎資料 第6版	樹村房	2010年

### 参考文献等

原聡介 監修 田中智志 編 『教育学の基礎』 一芸社  
 佐藤学 編 『教育本4.4』 平凡社  
 田中智志 今井康雄 編 『キーワード 現代の教育学』 東京大学出版会  
 木村元 小玉重夫 船橋一男 『教育学をつかむ』 有斐閣

その他、各回授業のなかで適宜紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日2限（10：40～12：10）  
 場所： 教育第4研究室  
 備考・注意事項： 質問等連絡をとりたい場合は、Eメールで（アドレスは授業のなかでお伝えします）。  
 Eメールの件名には、必ず学籍番号と氏名を入れてください。

### 授業計画

回数	タイトル	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション — 「教育」とは？ —</b>  教職課程において、なぜ「教育学」を学ぶ必要があるのかを、①「教育」に対する理解の交換（グループワーク）、②「教育学」がめざすことの学習を通して理解する。	4時間
第2回	<b>「教育」の意味</b> 「教育とは」という問いから、各人のもつ教育観を振り返り、「教育」の意味の多様性と共通性について考察する。	4時間
第3回	<b>「教育」の場所</b>  人間形成は多様な「教育」の場所を通過しながらなされていくことについて考察するとともに、そうした場所の相互関係がどのように変遷してきたのかについて理解する。	4時間
第4回	<b>現代の子ども観と教育観</b> 子ども観と教育観との結びつきに着目し、「教育」を校正する要素としての子ども理解の問題について考察する。	4時間
第5回	<b>家族と社会による教育の歴史（1）西洋の教育思想と歴史</b>  家族と社会が教育の担い手であった、近代以前の西洋における教育の思想と歴史を学び、理解する。	4時間
第6回	<b>家族と社会による教育の歴史（2）日本の教育思想と歴史</b>  家族と社会が教育の担い手であった、近代以前の日本における教育の思想と歴史を学び、理解する。	4時間
第7回	<b>近代教育制度の成立と展開（1）西洋の教育思想と歴史</b>  西洋において近代教育制度が成立・展開していく過程における教育の思想と歴史を学び、理解する。	4時間
第8回	<b>近代教育制度の成立と展開（2）日本の教育思想と歴史</b>  日本において近代教育制度が成立・展開していく過程における教育の思想と歴史を学び、理解する。	4時間
第9回	<b>現代日本における公教育制度の原理及び理念</b>  現代日本における公教育制度の原理及び理念について、教育関係法規に基づいて理解する。	4時間
第10回	<b>現代日本における公教育制度の仕組みと諸課題</b>  現代日本の教育制度を支える教育行政の理念と仕組みについて理解し、併せて、教育制度をめぐる具体的な諸課題について考察する。	4時間
第11回	<b>現代社会における教育課題（1）世界における教育課題と教育政策の動向</b> 世界で見られる教育課題と教育政策の動向について理解する。	4時間
第12回	<b>現代社会における教育課題（2）日本における教育課題と教育政策の動向</b> 日本で見られる教育課題と教育政策の動向について理解する。	4時間

第13回	<b>現代日本における学校教育の課題（1）地域との連携</b>	地域との連携に基づく開かれた学校づくりが進められてきた事例を調べ、その意義について整理すること。	4時間
	学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。		
第14回	<b>現代日本における学校教育の課題（2）学校安全への対応</b>	危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性と具体的な取り組みについて、事例を調べ、整理すること。	4時間
	学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取り組みを理解する。		
第15回	<b>まとめ — 「教育学」を通しての学びを振り返る —</b>	本授業で扱った内容を整理し、復習しておくこと。	4時間
	「教育学」授業を通しての学びを振り返り、総括する。		

授業科目名	<b>教育心理学</b>				
担当教員名	田中哲平				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

教育心理学では、心理学の様々な基礎的知識を学びながら、幼児や児童および生徒の心と身体の発達過程を理解するとともに、学習の成立過程に関しても学ぶ。これらを通じ、各種発達段階に応じた適切な学習指導の礎となる考え方の理解を深める。講義では配布資料を読むだけでなく、映像資料の視聴や学生同士の話し合い、そして簡単な心理学実験を行い、上記の目標を達成する。幼児・児童・生徒の心身の発達過程や、学習の成立過程に関する基礎理論を学び、彼らの発達と学習を支える教育活動について論じていく。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

#### 具体的内容：

教育に関連する心理学の考え方を理解する。

#### 目標：

教員として求められる心理学的な知識を身に付ける。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

教育現場における幼児、児童および学生について深く理解し、適切な関わり方を考えることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業への取り組み状況	30%	： 授業内容に関する質問、コメント、感想などを記入するコメントカードを用いて評価する。 (2点×15回=30点)
小テスト	20%	： 講義で学んだ知識を正しく理解しているかについて評価する。(10点×2=20点)
期末試験	50%	： 講義で学んだ知識を正しく理解しているかについて評価する。(50点)

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

授業内で配布する資料

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日1限  
場所： 研究室

### 授業計画

授業外学修課題にかかるとする目安の時間

第1回	<b>教育心理学とはなにか</b>  授業の目的、内容、評価について確認を行い、心理学や教育心理学の基本的な考え方を理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「原始反射」「喃語とクーイング」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第2回	<b>子どもの言語発達</b>  幼児の発達、特に原始反射や幼児の言語獲得について理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「発達の最近接領域」「物体の永続性」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第3回	<b>子どもと外界との関わり</b>  幼児の発達、特に発達の最近接領域や物体の永続性について学び理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「ピアジェの認知的発達段階理論」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第4回	<b>様々な発達段階理論</b>  幼児の発達、特にピアジェの認知的発達段階理論について学び理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「心の理論」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第5回	<b>子どもの心の理論 / 到達度テスト</b>  幼児の発達、特に心の理論について理解する。第1回～第4回を範囲とした小テストを行う。	配布資料を復習し、次回キーワードの「ボウルビイの愛着理論」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第6回	<b>愛着理論</b>  幼児の発達、特に愛着理論について理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「古典的条件付け」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第7回	<b>条件づけから見た学習理論</b>  人間の学習における古典的条件付けについて学び理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「試行錯誤学習」「洞察学習」「オペラント条件付け」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第8回	<b>様々な学習理論と強化スケジュール</b>  人間の学習におけるオペラント条件付け、試行錯誤学習、洞察学習について理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「アンダーマイニング効果」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第9回	<b>動機付けのメカニズムと社会的学習</b>  人間の学習における動機付けと社会的学習について理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「類型論」「特性論」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第10回	<b>パーソナリティの諸理論 / 到達度テスト</b>  パーソナリティ、特に類型論と特性論について理解する。第5回～第9回を範囲とした小テストを行う。	配布資料を復習し、次回キーワードの「IQ」「ロールシャッハテスト」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第11回	<b>性格検査と知能検査</b>  各種の性格検査や知能検査について理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「短期記憶」「長期記憶」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第12回	<b>記憶のメカニズム</b>  人間の記憶のメカニズムについて、古典的な実験を基に理解を深める。	配布資料を復習し、次回キーワードの「ワーキングメモリ」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第13回	<b>脳科学から見た記憶と学習</b>  人間の記憶のメカニズムについて、最新の脳科学研究から理解を深める。	配布資料を復習し、次回キーワードの「集団とリーダー」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第14回	<b>集団の形成</b>  教育現場における集団におけるリーダーについて理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「学習評価」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第15回	<b>学習評価</b>  教育現場における学習評価に関する知識と、評価が歪む心理的要因について理解する。	これまでの授業を復習し、疑問点をまとめてくる。	4時間



授業科目名	<b>国語科指導法</b>				
担当教員名	白瀬浩司				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	私立中学・高校（同志社中学校講師、桃山学院高等学校講師、大谷中学・高等学校教諭）で、授業指導・生徒指導に携わってきました。〔全15回担当〕				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

母語としての言葉は、私たちの日常（物の見方・感じ方、他者との交流）を支えるばかりではありません。自身や対象を捉え、表現する言葉の獲得は、個の成長とも密接に関わるものです。本講座では、学習指導要領や授業実践事例を参照しながら国語科教育の意義と目標、指導の系統性や方法について捉えていくこととなります。また、学習者（生徒）自身の実感や言葉を教室で置き放ち、共有するために必要な授業指導技能の修得をめざします。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

国語科教育の意義に関する理解。国語科教育の内容「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の系統性に関する理解。

#### 目標：

中等教育における国語科の学びの意義と重要性について理解することができる。中等教育における国語科の目標と内容を知り、その繋がりを理解することができる。

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP6. 行動・実践

現状を捉えた上で、いま解決すべき課題に気づくことができる。  
課題解決のための具体的な道筋を見据え、計画を立てることができる。  
計画に従い、課題解決のための具体的な取り組みを遂行することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

学習指導要領に関する小テスト	15%	: 50点満点の小テストを講義時に3回実施し、その素点の合計を評価割合に換算します。
学習指導案作成	40%	: 小課題として学習指導案作成を4度（10点×4）実施し、過不足なく各項目を記述できているか評価します。評価基準は、講義時に提示。
実技試験（模擬授業）	20%	: 模擬授業で扱う教材の学習指導案に加え、模擬授業の内容（20点）について、評価します。模擬授業の評価基準は講義時に提示。
模擬授業評価票の記入	10%	: 提出された模擬授業評価票（他の受講生の模擬授業に対する評価およびコメント）の記述内容により評価します。評価基準は、講義時に提示。
受講態度	15%	: 各回の授業への参加態度（通常時の発言・模擬授業での生徒役としての発言）、課題への取り組み姿勢により、評価します。

### 使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年

## 参考文献等

『中学校学習指導要領解説 国語編』（文部科学省）  
白瀬浩司著『動態としての国語教室』（太陽書房、2018年）

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜・第3限  
場所： 西館4階 91研究室

## 授業計画

		授業外学修課題にか かる目安の時間
第1回	<b>国語科教育の目標と内容、授業指導技術について</b> 学習指導要領に示された目標および内容の構成について理解するとともに、中学校における各学年の目標を確認します。また、具体的な授業指導技術について理解していきます。	4時間
第2回	<b>中学校国語科における「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の内容</b> 学習指導要領を参照しつつ、中学校の各学年における「3領域」と「1事項」の指導内容と、その系統性について理解します。 ※学習指導要領・小テスト（1）	4時間
第3回	<b>随筆文（向田邦子『字のないはがき』）の授業実践</b> 随筆教材を用いた授業実践事例を参照しながら、自身の授業づくりに備え、授業の流れや準備について理解します。 ※学習指導要領・小テスト（2）	4時間
第4回	<b>物語文（米倉斉加年『大人になれなかった弟たちに……』）の授業づくり</b> 物語文教材を用いた授業実践事例を参照しながら、自身の授業づくりに備え、授業の流れや準備について理解します。 ※学習指導要領・小テスト（3）	4時間
第5回	<b>説明文（桑原茂夫『ちょっと立ち止まって』）の授業づくり</b> 説明文教材を用いた授業実践事例を参照しながら、自身の授業づくりに備え、授業の流れや準備について理解します。	4時間
第6回	<b>言語事項（漢字・文法）の理解①—中1・中2履修範囲について</b> 中1・中2で履修する言語事項（漢字・文法）に関する授業内容について理解します。	4時間
第7回	<b>言語事項（漢字・文法）の理解②—中2・中3履修範囲について</b> 中2・中3で履修する言語事項（漢字・文法）に関する授業内容について理解します。 ※学習指導案作成演習（1）	4時間
第8回	<b>授業指導技術について</b> 教壇での所作や発問・板書などの技術および情報機器の使い方について理解し、各自が教壇に立って実演します。	4時間
第9回	<b>言語事項（漢字・文法）の模擬授業</b> 教員役担当者の模擬授業に他の受講生は生徒役として参加するとともに、発声や目配り・立ち位置、発問や板書の適否について評価します。	4時間
第10回	<b>詩・短歌・俳句の基礎知識と授業づくり</b> 詩・短歌・俳句の基礎知識を踏まえた上で、授業実践事例を参照しながら、自身の授業づくりに備え、授業の流れや準備について理解します。 ※学習指導案作成演習（2）	4時間
第11回	<b>詩・短歌・俳句教材の模擬授業</b> 教員役担当者の模擬授業に他の受講生は生徒役として参加するとともに、発声や目配り・立ち位置、発問や板書の適否について評価します。	4時間
第12回	<b>説明文の学習指導案作成</b> 説明文教材に関する教師用指導書案を参照しながら、グループで討議をしてひとつの学習指導案をつくり上げます。 ※学習指導案作成演習（3）	4時間
第13回	<b>説明文の模擬授業</b>	4時間

	<p>教員役担当者の模擬授業に他の受講生は生徒役として参加するとともに、発声や目配り・立ち位置、発問や板書の適否について評価します。</p>		
第14回	<p><b>古典教材の授業づくり</b></p> <p>古典教材に関する教師用指導書を参照しながら、グループで討議をしてひとつの学習指導案をつくり上げます。</p> <p>※学習指導案作成演習（4）</p>	<p>古典教材に関する学習指導案を各自で完成させる。</p>	4時間
第15回	<p><b>教育実習での教壇実習から、やがて現場実践へ繋ぐために</b></p> <p>模擬授業の総評、教育実習時の留意点、教員となった時の現場実践などについて捉え返しをおこなっていきます。</p>	<p>講座での学びを振り返り、自身に不十分だと感じる点があれば、重点的に学修を続け、担当者の指導を受ける。</p>	4時間

授業科目名	<b>家庭科指導法</b>				
担当教員名	古田豊子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義で家庭科教育におけるキーワードを学び、学習指導案を作成し、発表し、履修者相互に意見交換を行い、授業方法について再考します。具体的には、単元ごとに学習指導案を作成するための教材研				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪市の小学校で校長を6年間経験し、家庭科の研究に取り組んだ。全国小学校家庭科教育研究会全国大会大阪府大会を開催し、大会実行委員長および会場校長として全学級公開を行う。近畿小学校家庭科教育研究会会長・大阪市家庭部部長を務める。(全15回)				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

現代の生活課題や教育課題をどのように解決し、どのような生活をつくりあげていけばよいかについて学ぶ。さらに生活課題について、家庭科でどのように取り上げ、教材化し、授業を構成していくのかについて、情報機器（ICTなど）を活用した指導案を作成し、模擬授業を行い、さらに修正検討し、より高度な授業技術を身につける。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

衣食住、生活経営などの各単元の理解  
家庭科の教材作りおよび学習指導案の作成、模擬授業

#### 目標：

実習や実技例から家庭科の内容を理解できる。  
単元内容について、教材化し、学習指導案を書ける。また、それに基づいて、模擬授業ができる。

#### 汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力
2. DP6. 行動・実践

家庭科の単元について年間計画をたてることができる。  
教材研究、学習指導案、模擬授業を通して、他者評価から、再構成できる力を養う。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ディベート、討論
- ・課題解決学習（PBL）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業後に書いてもらうコメント	20%	: 授業内容を的確にまとめ、理解しているかという観点から評価する。
グループワークにおける関与度	10%	: 関与度について、独自のルーブリックに基づき、評価します。
課題	40%	: 内容の妥当性について、独自のルーブリックに基づき、評価します。
最終レポート	30%	: 内容の妥当性について、独自のルーブリックに基づき、評価します。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
中間美砂子・多々納道子編著	・ 中学校・高等学校家庭科指導法	・ 建帛社	・ 年

### 参考文献等

- 「暮らしの中から始める持続可能な社会」開隆堂  
「中学校技術・家庭科教科書（家庭分野）」開隆堂

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後  
場所： 授業の教室  
備考・注意事項： 連絡先：ftyk2015@gmail.com

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>今日の生活課題と家庭科の意義</b> 教科「家庭科」における目標と指導について学ぶ。	学習指導要領を読んでおく 4時間
第2回	<b>アクティブラーニング、IGTと家庭科</b> 家庭科におけるアクティブラーニングの活用法について学ぶ。	アクティブラーニングの内容について整理しておく 4時間
第3回	<b>家庭科の創造：食とグローバリゼーション</b> グローバル社会における食の流通について学ぶ。	フードマイレージ、食糧自給率について調べておく。 4時間
第4回	<b>家庭科の授業：ウェイピングマップによる課題整理</b> 家族、食、健康、地域、地球をキーワードに食の課題について整理する。	持続可能な食生活の課題についてまとめ、教材を作成する。 4時間
第5回	<b>家庭科の授業：食領域を中心とした教材作成</b> テーマを設定し、食領域における教材作成と模擬授業を行う。	教材作成について再考する。 4時間
第6回	<b>家庭科の創造：グローバリゼーションと衣生活</b> 持続可能な社会における衣服の消費と課題について学ぶ。	消費者庁のホームページから、消費者問題について、持続可能な社会の視点でレポートを書く。 4時間
第7回	<b>家庭科の授業：衣領域を中心とした教材作成</b> 衣服のコーディネートを中心とした教材作成を行う。	教材作成について再考する。 4時間
第8回	<b>家庭科の創造：社会システムと保育</b> 社会システムに組み込まれた保育の現状と課題について学ぶ。	子どもの頃の育ちを分析しておく。 4時間
第9回	<b>家庭科の授業：保育領域を中心とした教材作成</b> 保育領域の中のテーマを設定し、教材作成する。	教材作成について再考する。 4時間
第10回	<b>家庭科の創造：セーフティネット、貧困と生活資源</b> セーフティネット、貧困と生活資源との関係について学ぶ。	キーワードノートを作成する。 4時間
第11回	<b>家庭科の授業：住領域を中心とした教材作成</b> 社会課題に対応し、「住む」を再考できるような教材を作成し、模擬授業を行う。	教材研究のポイントを中心に、まとめておく。 4時間
第12回	<b>家庭科の創造性：ESD</b> SDGsをもとに、持続可能な社会と生活について学ぶ。	学習指導要領とのかかわりについて再考する。 4時間
第13回	<b>家庭科の授業：ESD</b> 持続可能な生活について作成した指導案をもとにして、模擬授業を行い、授業観察後、相互評価をする。また改善点を自分の授業に生かす。	模擬授業を行い、自己、他者評価の結果から、新たな授業案を作成する。 4時間
第14回	<b>主体的な家庭科の学び：評価</b> 家庭科における評価について、4観点から学ぶ。	ルーブリックについて調べておく。 4時間
第15回	<b>ジェンダーと家庭科教育</b> 家庭科の資質を再考し、男女共同参画社会の観点から家庭科教育の未来を考える。	家庭科の専門性とは何か、最終レポートを書く。 4時間

授業科目名	<b>道徳教育の指導法</b>				
担当教員名	服部敬一				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校教諭（23年），小学校教頭（5年），教育委員会指導主事（2年），小学校校長（7年）（全15回）				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

道徳教育の基盤である道徳の意味や善悪，正しさについての理解をもとに，学校で道徳教育を行うことの意義について理解する。その上で，学習指導要領がめざす「特別の教科 道徳（道徳科）」と「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」それぞれの特徴，目標，内容等，指導方法についての理解を深め，道徳教育の理論や方法，道徳性の発達について論じる。また，教師に姿勢や態度，指導力について理解する。さらに，「特別の教科 道徳」の学習指導案の作成，師範授業，模擬授業，討議等を通して授業についての理解を深める。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	道徳教育に関する専門的な知識の習得	道徳的に生きることにどのような意味があるのか，道徳を教えるとはどういうことかについて理解することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	「特別の教科 道徳」の指導に関する専門的な基礎知識と実践的な技能の獲得	「特別の教科 道徳」の授業理論，教材理解，指導方法，評価について理解し，実践的な授業力や評価する力の基礎を身につけることができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		物事を根本から考え直すことで，課題に気づくことができる。
2．DP5. 計画・立案力		目標を明確にし，それを達成するための計画を立案することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
シャトルシート	30% : 授業内容を正しく理解できているかという観点から評価する。
指導案作成	10% : それまでの授業内容の理解に基づいた効果的な指導案が作成できているかどうかを評価する。
受講態度	10% : 授業に積極的に参加し，進んで課題に取り組む態度を評価する。
期末試験「筆記」	50% : 授業内容の理解度を評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編	・ 廣済堂あかつき	・ 2017年

### 参考文献等

- ・授業の中で配布する。
- ・授業の中で適時紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜2限・昼休み

場所： 研究室

備考・注意事項： 具体的な質問方法については、初回授業時に周知します。

### 授業計画

		授業外学修課題にかかるときの目安の時間
第1回	<p><b>道徳的に生きることの意味</b></p> <p>道徳的に生きることは世知と一致しないように見えるかも知れない。果たしてそうなのか？道徳的に生きることの意味について理解を深める。</p>	4時間
第2回	<p><b>価値観の多様化の中の道徳教育</b></p> <p>現在は価値観の多様化と言われる社会である。したがって、道徳の問題には答えがないように思われがちである。果たしてそうなのか？価値観が多様化する社会における道徳教育はどのように行われるべきかについて考えを深める。</p>	4時間
第3回	<p><b>児童（子ども）と社会と道徳上の課題</b></p> <p>今の日本社会における子どもの道徳に関わる問題について話し合うとともに、資料をもとに理解を深める。</p>	4時間
第4回	<p><b>学習指導要領がめざす道徳教育</b></p> <p>『小学校学習指導要領』における道徳教育が「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」と「特別の教科 道徳（道徳科）」によって構成されていること、それぞれの特質や機能について理解する。</p>	4時間
第5回	<p><b>道徳教育において分かることの意味</b></p> <p>道徳教育では「分かること」よりも「感じること」「意欲を高めること」が重要であると思われがちである。ここで、今一度、道徳教育において分かることの意味について考え、理解を深める。</p>	4時間
第6回	<p><b>「特別の教科 道徳（道徳科）」の教材理解</b></p> <p>「特別の教科 道徳（道徳科）」の教科書に載っている教材を用いて、それで何を指導するか、どんなことに気付かせるかについての理解を深める</p>	4時間
第7回	<p><b>「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業構想</b></p> <p>前時の教材を用いてどのような授業をすればよいかを構想し、それを交流し合う中で、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業理論について理解を深める。</p>	4時間
第8回	<p><b>「特別の教科 道徳（道徳科）」の模擬授業</b></p> <p>前時の授業及びその後で作成した学習指導案を用いて模擬授業を行い、その授業について意見を述べ合い、指導者の指導を通して「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業についての理解を深める。</p>	4時間
第9回	<p><b>「特別の教科 道徳（道徳科）」の師範授業</b></p> <p>前時と同じ教材を用いて指導者が模範授業（模擬授業）を行い、その授業について意見を述べ合い、指導者の指導を通して「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業についての理解を深める。</p>	4時間
第10回	<p><b>「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業づくり</b></p> <p>これまでの模擬授業、師範授業を通して深まった考えに立ち、新たな教材を用いて指導案を作成する。</p>	4時間
第11回	<p><b>「特別の教科 道徳（道徳科）」の模擬授業の検討会</b></p> <p>前時に作成した指導案について、検討し、課題や改善点を明確にすることで、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業についての理解を深める。</p>	4時間

第12回	<b>「特別の教科 道徳（道徳科）」の評価</b>	講義の内容を『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の評価について考えを深める。	4時間
『学習指導要領』が示す「特別の教科 道徳（道徳科）」の評価について理解するとともに、授業評価、子どもの評価の意味についても理解する。			
第13回	<b>「特別の教科 道徳（道徳科）」の指導計画の作成</b>	講義の内容を『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の指導計画について考えを深める。	4時間
「特別の教科 道徳（道徳科）」の指導計画の作成について、『小学校学習指導要領』の基本的な考え方、その意味について理解する。			
第14回	<b>学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育</b>	講義の内容を『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』や配付資料、ノート等を用いて復習し、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について理解を深める。	4時間
学校における道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うものであることを理解した上で、道徳教育の全体計画をもとに、その特質、教育の場、教育の方法、手だてについて具体的に理解する。			
第15回	<b>学級づくりと道徳教育</b>	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し、学級づくりと道徳教育について理解を深める。	4時間
小学校教育における学級は、道徳性を育む上で重要な場である。そこで、どのような目標をもって、どのように児童（子ども）を育てていくのか、その基本的な考え方について理解を深める。			



911

授業科目名	<b>教育方法論</b>				
担当教員名	山本はるか				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

**授業概要**

本講義では、学校現場において、教育目標を実現するために何をどのように教えるかという教育方法の課題を取り扱い、生徒を指導するための方法・技術を学ぶことを目的とする。具体的には、教育目標・教育内容・教材・教授行為・教育評価の各側面から、授業実践を行う上で基礎となる知識を修得することをめざす。そして、教育現場での実践に生かせるような教育方法の理論的知識や概念、および情報機器の活用などを含めた今日的課題について理解を深め、多様な側面から授業づくりにおける実践的な力を養う。

**養うべき力と到達目標**

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育方法に関する基礎的な考え方・知識	教育方法に関する基礎的な考え方や知識を修得することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	学習指導案の作成と授業実践	教育方法の基本的な考え方や知識を学習指導案の作成と授業実践に活用することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		授業づくりに際して、教員が直面する課題を見出すことができる。
2．DP5. 計画・立案力		発見した課題の解決に向けて、学習指導案を作成することができる。

**学外連携学修**

無し

**授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）**

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価****注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

**成績評価の方法・評価の割合****評価の基準**

定期試験	50%	： 教育方法に関する基礎的な知識を修得できているかどうかを判断する。
授業内課題を含むレポート	50%	： 教育方法に関する基礎的な知識を用いて、学習指導案を作成できているかどうかを判断する。

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説』東山書房、2018年
  - ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説』
  - ・田中耕治編『時代を拓いた教師たち』日本標準、2005年
  - ・田中耕治編『時代を拓いた教師たちII』日本標準、2009年
  - ・奈須正裕『教師という仕事と授業技術』ぎょうせい、2006年
  - ・田中耕治編著『教職教養講座 第5巻 教育方法と授業の計画』協同出版、2017年
- そのほか、各テーマにあわせて適宜授業中に紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

時間： 月曜日 3限  
 場所： 研究室（本館5F）

### 授業計画

		授業外学修課題にかかるとする自らの時間
第1回	<b>オリエンテーション：「教育方法」の範囲、授業を構成する要素</b> 本講義の目標、内容、評価を知る。授業を成立させる要素を知る。	予習シートの作成：行動主義、構成主義 4時間
第2回	<b>教育目標論：教授法・学習観の変遷</b> 教授法・学習観の変遷を知り、教育目標について考える。	予習シートの作成：指導言 4時間
第3回	<b>学習者の学びと教育内容をつなぐ教授行為（1）教師の指導言</b> 教師の指導言の重要性、種類を知る。	予習シートの作成：発問 4時間
第4回	<b>学習者の学びと教育内容をつなぐ教授行為（2）発問の工夫</b> 教師の教授行為のうち、特に「発問」の意義を知り、発問づくりを行う。	予習シートの作成：教育内容、教材 4時間
第5回	<b>学習者の学びを高める教材・教具論（1）教育内容・教材・教具の区別</b> 教育内容・教材・教具について、それぞれの定義を押さえ、区別することの意義を知る。	予習シートの作成：教材解釈、教材開発 4時間
第6回	<b>学習者の学びを高める教材・教具論（2）教材解釈・教材開発</b> 教材解釈・教材開発の違いを知る。学習指導案で使用する教材を開発する。	予習シートの作成：学習形態 4時間
第7回	<b>学びの様式と指導形態（1）学習集団論、学習形態</b> 能力別編成、学び合いの授業などを知る。	予習シートの作成：板書 4時間
第8回	<b>学びの様式と指導形態（2）板書、情報機器の活用</b> 板書の方法、情報機器の活用方法を知る。	予習シートの作成：教育評価 4時間
第9回	<b>教育評価論：目標と評価の一体化、目標に準拠した評価、パフォーマンス評価</b> 教育評価論の歴史と、今求められる評価の考え方や方法を知る。	これまでの学修内容を整理し、テストに備える。 4時間
第10回	<b>中間まとめ、マイクロ・ティーチング・オリエンテーション</b> 授業の導入の意義や目的を知り、導入5分間の授業づくりを行う。	テストの復習をする。マイクロ・ティーチングの構想と練習を行う。 4時間
第11回	<b>マイクロ・ティーチング（1）5分間の授業導入</b> 5分間の授業導入を行う。	振り返りシートを作成する。 4時間
第12回	<b>マイクロ・ティーチング（2）分析</b> 前回の振り返りを踏まえて、分析を行う。	振り返りシートを完成させる。 4時間
第13回	<b>学習指導案の作成（1）教育目標・教育内容の検討</b> 学習指導案を作成するために、教育目標と教育内容を整理する。	学習指導案レポートを作成する。 4時間
第14回	<b>学習指導案の作成（2）発問・教材の検討、授業展開の練り直し</b> 学習指導案を完成させるために、発問や教材を検討し、授業全体の展開を練り直す。	学習指導案レポートを完成させる。 4時間
第15回	<b>まとめ</b> グループで学習指導案を検討し、これからの教育実践の在り方について考察する。	学習指導案レポートの吟味、修正を行う。 4時間

912

授業科目名	<b>生徒指導・進路指導</b>				
担当教員名	中野 澄				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校教員、教育委員会指導主事、文部科学省生徒指導調査官、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター総括研究官として、生徒指導及び進路指導に関する実務や研究に携わる。				

開放科目の指示：「可・不可」

**授業概要**

学校教育における生徒指導と進路指導の位置づけ及び教育機関における体制について理解し、これらを実施するために必要な諸理論や手法について学ぶ。また、具体的な生徒指導・進路指導及びキャリア教育の事例を取り上げ、問題の理解を深めるとともに、望ましい学級形成のあり方についても考究する。そして、理論と事例研究の統合を図ることにより、生徒指導及び進路指導に関する現代的な課題を探求し、実際の教育活動の意義と実際的な取り組み方についての理解を深める。

**養うべき力と到達目標****確かな専門性**

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

**具体的内容：**

望ましい生徒指導・進路指導のあり方への理解を深め、教育現場での実践に活かすことができるようにする。

**目標：**

生徒指導・進路指導に関する知識・技能を身につけている。教育現場における生徒指導・進路指導の役割と重要性を理解している。

**汎用的な力**

1. DP9. 役割理解・連携行動

教職員間・家庭・地域・関係諸機関との連携のありかたについて理解している。

**学外連携学修**

無し

**授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）**

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ディベート、討論
- ・課題解決学習（PBL）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価****注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

**成績評価の方法・評価の割合**

授業の参加度

50%

レポート課題

50%

**評価の基準**

： 毎回、コミュニケーションカードを提出する。授業への積極的参加、グループワークへの貢献度、授業態度などを総合的に評価する。

： 生徒指導・進路指導のそれぞれについてレポートを課す。

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特になし

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

時間： 金曜 4限

場所： 研究室または教室（授業時間の前後）

## 授業計画

		授業外学修課題にかかるとの自らの時間
第1回	<p><b>オリエンテーション</b></p> <p>生徒指導、進路指導とはなにかについて概要を知り、それら学ぶ意味について理解する。授業の進め方について理解する。グループ編成を行う。</p>	<p>学修内容について整理する。この講義に期待すること及び自分の問題意識を整理しておく。</p> <p>4時間</p>
第2回	<p><b>教育課程における生徒指導・進路指導の位置づけと体制</b></p> <p>生徒指導が教育課程の中でどのように位置づけられ、どのような体制で取り組まれているのか、そのシステムについて知ると同時に、どのような児童生徒観をもとに何を指して実践されているかについて理解する。</p>	<p>学修内容について整理する。自身の中学校での体験を振り返り、何が生徒指導として行われていたか考えてみる。</p> <p>4時間</p>
第3回	<p><b>各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導（基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成など）の意義と重要性</b></p> <p>日常的な教育活動の中に生徒指導の機能があることを理解し、各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の機能のあり方について探求する。グループワークを行う。</p>	<p>学修内容について整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、様々な教育活動における生徒指導のあり方について文献にあたる。</p> <p>4時間</p>
第4回	<p><b>生徒指導の理論と手法（1）集団指導・個別指導（教育相談を含む）の原理と方法</b></p> <p>2～3回の学修内容をふまえて、生徒指導における集団指導と個別指導の相互の必要性和相互の関連のあり方について学ぶとともに、それぞれの指導におけるチーム学校の構成員や連携のあり方を理解する。グループワークを行う。</p>	<p>学修内容について整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、生徒指導におけるチーム学校について文献にあたる。</p> <p>4時間</p>
第5回	<p><b>生徒指導の理論と手法（2）学級集団形成の目的と方法 自尊感情を育む</b></p> <p>「集団によって個が育つ」ことを深く理解するとともに、設定された場面における自尊感情の育成を意識した生徒指導のあり方について考究する。グループワークを行う。</p>	<p>学修内容について整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、生徒指導の3機能について事例を調べる。</p> <p>4時間</p>
第6回	<p><b>生徒指導の理論と手法（3）個別指導 生徒指導に関する法令内容の理解</b></p> <p>子どもの人権を尊重した生徒指導とは何か、事例をもとに探求する。また、懲戒・体罰と教師の指導性について考察し、真の生徒指導とはどうあるべきかを探求する。グループワークを行う。</p>	<p>学修内容について整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、体罰に関する事例について文献にあたる。</p> <p>4時間</p>
第7回	<p><b>実践事例研究（1）いじめ問題（インターネットによる誹謗なども含む）の構造と対策</b></p> <p>「いじめ防止対策推進法」及び「学校いじめ防止基本方針」に基づき、学校現場における組織対応の重要性について理解する。また、インターネットによるいじめ事案をもとに、「学校いじめ防止基本方針」に基づく対応のあり方を考究する。グループワークを行う。</p>	<p>学修内容について整理する。学校のホームページ等の情報によって得られた複数校の「学校いじめ防止方針」を参考に、未然防止と早期発見・早期対応の違いについて、グループワークでの論点をまとめる。</p> <p>4時間</p>
第8回	<p><b>実践事例研究（2）暴力行為・虐待問題の構造と対策</b></p> <p>暴力行為に対する組織対応の必要性について理解を深めるとともに、事例を通じて専門家・関係機関との連携の在り方について考究する。また、虐待問題に関する学校のはたすべき役割と専門家の活用、関係機関との連携について理解する。グループワークを行う。</p>	<p>学修内容について整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、学校と福祉機関との連携について事例を調べる。</p> <p>4時間</p>
第9回	<p><b>実践事例研究（3）不登校への対応</b></p> <p>不登校の定義を知り、不登校対策を未然防止・早期対応・自立支援に分けつつ、状況に応じたチーム学校の対応について理解を深める。グループワークを行う。</p>	<p>学修内容について整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、不登校児童生徒に関するチーム学校について事例を調べる。</p> <p>4時間</p>
第10回	<p><b>キャリア教育・進路指導の理論と進め方</b></p> <p>学校現場におけるキャリア教育・進路指導が学校全体の中でどのように位置づけられ、どのような体制で取り組まれているのか、そのシステムについて知ると同時に、どのような児童生徒観をもとに何を指して実践されているかについて理解する。</p>	<p>学修内容について整理する。自身の中学校での体験を振り返り、何がキャリア教育・進路指導として行われていたか考えてみる。</p> <p>4時間</p>
第11回	<p><b>生徒指導・進路指導・キャリア教育における学校・家庭・地域社会の連携</b></p> <p>学校が家庭や地域との連携して取り組んだ事例をもとに、連携の大切さとその方法について考究する。</p>	<p>学校・家庭・地域の連携によって指導に成果の上があった事例を、授業で扱った事例以外で見つける。三者の連携に関して学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>4時間</p>
第12回	<p><b>職業に関する体験活動を核としたカリキュラム・マネジメントの意義</b></p> <p>学校が地域と連携して取り組む体験活動の事例をもとに、事前事後学習の方法について考究する。グループワークを行う。</p>	<p>学修内容について整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、職業に関する体験活動と事前事後学習について事例を調べる。</p> <p>4時間</p>
第13回	<p><b>ガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育</b></p>	<p>学修内容について整理する。自身の中学校での体験を振り返り、何がガイダンスとして行われていたか考えてみる。</p> <p>4時間</p>

	進路指導・キャリア教育の方法として、全生徒を対象としたガイダンスとしての指導のあり方を理解する。		
第14回	<b>キャリアカウンセリングの考え方と方法</b>  進路指導・キャリア教育の方法として、個別の課題に向き合うカウンセリングとしての指導の在り方を理解する。	学修内容について整理する。自身の中学校での体験を振り返り、進路相談の中でどんなカウンセリングが行われていたか考えてみる。	4時間
第15回	<b>まとめ 一理論と実践の統合を図るために</b>  これまでの学修内容を振り返り、望ましい生徒指導及び進路指導のあり方について考究する。	生徒指導・進路指導について学んだ内容を整理しレポートする。定期試験にむけて15回の授業全体から学んだことを復習する。	4時間

授業科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法				
担当教員名	松田 修				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教員として、教諭、教育委員会、校長を務める。</li> <li>・特別活動に関わる研究会に所属し、計画・運営に携わる。（全15回）</li> </ul>				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

特別活動が教育活動の中で、児童・生徒の人間形成にどのような役割を果たしているのかを理解するとともに、特別活動を推進していく上で必要な基礎的・基本的な知識・技能を修得することを目的とする。また、特別活動の基盤である「学級活動」については、「実習」等も交えながら、具体的な指導法について学ぶ。また、総合的な学習の時間では、目標及び内容から、どのような学習であるかを理解するとともに、「年間指導計画や単元計画の作成の仕方」「探究的な学習」の進め方について理解を深める。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

特別活動並びに総合的な学習の時間の指導法について理解を深める。

#### 目標：

特別活動や総合的な学習の時間の特質を理解し、問題解決的及び探究的な学習の方法を理解する。

#### 汎用的な力

- 1 . DP5. 計画・立案力

特別活動並びに総合的な学習の時間の課題発見、話し合い、解決に向けての取り組みなど一連の活動計画や年間指導計画等を立案できる。

- 2 . DP6. 行動・実践

課題を発見し、見通しを立て自ら進んで計画や実践に取り組む態度を育てる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行いません。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内課題	20%	授業内での役割遂行や課題提出などにより評価します。
振り返りシート	30%	授業内容が的確にまとめられ理解できているか、自分の考えや思いが述べられているかを評価する。
定期テスト	50%	授業で行った範囲の中から、授業内容を的確に把握できているかを確認する筆記テストを実施する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 中学校学習指導要領解説 特別活動編	・ 東山書房	・ 29年
文部科学省	・ 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間	・ 東山書房	・ 29年

### 参考文献等

- ・ 21世紀社会に必要な「生き抜く力」を育む『特別活動の理論と実践』中園大三郎・松田修（編著） 学術研究出版 2018年4月
- ・ 『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』文部科学省 教育出版 平成22年11月

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
テキストをもとに次回の学習内容について楊脩を行うとともに、授業後は、配布プリントをもとに丁寧に復習に取り組むこと。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日 4限

場所： 研究室

備考・注意事項： 具体的な方法については、初回授業時に周知します。

## 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安時間
第1回	<p><b>特別活動の目標・内容と特質・教育的意義</b></p> <p>本授業の目標・内容、進め方や評価方法について確認する。また、特別活動の教育課程の位置付けや教育的意義・特質について学ぶ。</p>	4時間
第2回	<p><b>特別活動と他の教育活動との関連</b></p> <p>特別活動と「特別の教科 道徳」や生徒指導、また、他の教科等との関連、各々の果たす役割について学ぶ。</p>	4時間
第3回	<p><b>学級活動における目標と内容</b></p> <p>学級活動の目標・内容からどのような活動を通して、どのような態度や力を身に付けていくのかを学ぶ。</p>	4時間
第4回	<p><b>学級活動(1)(2)(3)における指導方法</b></p> <p>学級活動(1)(2)(3)において、各々の指導法に違いがあることを理解するとともに、各学習過程について学ぶ。</p>	4時間
第5回	<p><b>学級活動における指導案作成の考え方</b></p> <p>学級活動(1)(2)の学習指導案についての基本的な考え方や作成の仕方について学ぶ。</p>	4時間
第6回	<p><b>学級活動(1)(2)の模擬授業(話し合い活動の実習)</b></p> <p>学級活動(1)(2)について役割分担を行い、事前に決められた題材について模擬授業(話し合い活動)を行う。</p>	4時間
第7回	<p><b>生徒会活動の目標・内容と指導法</b></p> <p>生徒会活動の目標や内容及び指導法(委員会活動)について学ぶ。</p>	4時間
第8回	<p><b>学校行事の目標・内容と指導法</b></p> <p>学校行事の目標・内容及び指導法について学ぶ。</p>	4時間
第9回	<p><b>「総合的な学習の時間」のねらいと意義、教育課程への位置づけ</b></p> <p>「総合的な学習の時間」が実施された背景や意義、及び教育課程への位置づけについて学ぶ。</p>	4時間
第10回	<p><b>「総合的な学習の時間」の目標・内容と全体計画の作成の考え方</b></p> <p>「総合的な学習の時間」の目標・内容、育てたい資質・能力と全体計画との関連について学ぶ。</p>	4時間
第11回	<p><b>「総合的な学習の時間」における「探究的な学習」の在り方</b></p> <p>「総合的な学習の時間」における「探究的な学習のプロセス」について学ぶ。</p>	4時間
第12回	<p><b>「総合的な学習の時間」と各教科等の関連</b></p> <p>「総合的な学習の時間」と各教科等で育成を目指す資質・能力との関連について学ぶ。</p>	4時間
第13回	<p><b>「総合的な学習の時間」の年間指導計画作成の留意点</b></p>	4時間

「総合的な学習の時間」の年間指導計画作成の基本的な考え方と留意点について学ぶ。		
<p>第14回</p> <p><b>「総合的な学習の時間」の単元計画作成の考え方</b></p> <p>「総合的な学習の時間」の単元計画作成の基本的な考え方を学ぶ。</p>	<p>テキストをもとに、「総合的な学習の時間」の単元計画について概観しておく。また、配布プリントをもとに単元計画作成の基本的な考え方や留意事項について理解を深める。</p>	<p>4時間</p>
<p>第15回</p> <p><b>「総合的な学習の時間」の評価の基本的な考え方とその方法</b></p> <p>「総合的な学習の時間」についての評価の基本的な考え方とその方法について学ぶ。</p>	<p>テキストをもとに「総合的な学習の時間」の評価について概観しておく。また、配布プリントをもとに復習し、評価の基本的な考え方や方法について理解を深める。</p>	<p>4時間</p>



授業科目名	<b>教育実習事前事後指導</b>				
担当教員名	佐伯暁子				
学年・コース等	1・2	開講時期	通年	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

事前指導では、教育実習Ⅰ・Ⅱに必要な基本的事項と心構えについて講義し、実習に対する目的意識を明確にし、教育実習が効果的に行われ、また、実り多いものとなるようにします。  
事後指導では、教育実習のまとめをして、実習日誌の整理、実習校への対応等を含め、自己評価を行うことにより、各自が教育実習体験を有効的に活用できるようにします。教育実習の事例について発表し、他者評価、自己省察を行い、グループディスカッションにより教育実習の効果を高めます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- 2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

教育実習への参加のための知識と理解  
教育実習に必要な技術

#### 目標：

教育実習の意義を知る。  
学校特性に応じた実践力を身につける。

#### 汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践

教師としての資質を身につけ、実習校で適応できる力を身につける。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則、欠席は認められません。

#### 成績評価の方法・評価の割合

課題レポート

60%

授業内課題

40%

#### 評価の基準

： 全学ルーブリックに基づき評価します。

： ワークシートや振り返りシートについて、授業内容を踏まえているか、自分の考えが書かれているか等の点から評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

- ・ 本学作成の教育実習記録
- ・ 教育実習ガイド

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜4限

場所： 西館5階研究室

備考・注意事項： その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：saiki@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画		授業外学修課題にかかるとの自らの時間
第1回	<b>中学校教育実習の意義と目的</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習の意義を学ぶ。</li> <li>・大学および教育実習校の指導体制の概要を理解する。</li> <li>・実習依頼の手続きと心得を学ぶ。</li> </ul>	教育実習校の学校概要についてレポートを書く。 2時間
第2回	<b>中学校教育実習体験発表</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先輩の中学校教育実習体験から学ぶ。</li> </ul>	先輩の学習体験についての事後レポートを書く。 2時間
第3回	<b>「教職履修カルテ」の説明と記入</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教職履修カルテ」の概要について学ぶ。</li> <li>・「教職履修カルテ」の記入可能な箇所について、各自が記入を行う。</li> </ul>	履修カルテから何を学ぶかについてレポートを書く。 2時間
第4回	<b>教育実習の基本的事項と実習校での諸活動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習に参加するにあたり、教育実習の基本事項を確認する。</li> <li>・実習校での諸活動を確認し、教育実習に必要な準備について見直しを得る。</li> </ul>	実習校に見合った基本的事項について調べておく。 2時間
第5回	<b>人権教育</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習の現場で重要な人権的配慮について、具体的な事例をもとに学ぶ。</li> <li>・教育実習先でどのような人権的配慮が求められるのかを各自が確認する。</li> </ul>	人権についての課題レポートを作成する。 2時間
第6回	<b>望ましい授業のあり方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・望ましい授業をするために必要な知識や技術を学ぶ。</li> <li>・発問、板書、掲示等について、その重要性和ポイントを学ぶ。</li> </ul>	板書の内容、書き方について練習する。 2時間
第7回	<b>学習指導案および教育実習記録の意義と作成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の学習指導案の意義を踏まえ、その書き方について基本事項を学ぶ。</li> <li>・各教科ごとに学習指導案の一部を実際に作成してみる。</li> <li>・中学校実習記録の記入について、基本事項を学ぶとともに、配慮すべきことを確認する。</li> </ul>	実習記録の意義について再考する。 2時間
第8回	<b>(事前指導) 実習校の実態をふまえた課題の確認</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習の各実習校について、その実態を学ぶ。</li> <li>・各実習校の実態を踏まえて、事前にどのような準備が必要かを考える。</li> </ul>	事前準備事項についてまとめておく。 2時間
第9回	<b>(事後指導) 中学校教育実習の報告・反省</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校教育実習について、実習後に各自が自己の実習をふり返し、報告するとともに、反省事項を確認する。</li> <li>・実習記録の内容を確認し、必要に応じて指導を行う。</li> </ul>	教育実習の内容の発表を通して、他者から学んだことをレポートに書く。 2時間
第10回	<b>教育実習の成果と自己評価</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ討議・発表を通して、教育実習全般について各自がふり返し、教育実習で得たものは何かを考える。</li> <li>・教育実習を通して明らかとなった、各自の実践的な課題について確認する。</li> </ul>	教育実習について自己省察と課題についてレポートを書く。 2時間

912

授業科目名	<b>教育実習Ⅰ・Ⅱ</b>				
担当教員名	佐伯暁子				
学年・コース等	2	開講時期	通年	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

**授業概要**

大学で学んだ講義や演習、実技を総合的に活用し、現場で実践・研究することにより、教育に対する理解を深めます。実習校における全教育活動を通して、学校教育の実際を体験し、生徒理解、教育課程、学習指導の研究、実践勤務のあり方等を学び、望ましい教師像を形成します。中学校での教育実習は3週間あるいは4週間です。ただし、ある学校で2週間実習し、別の学校で2週間実習するなどの場合もあります。したがって、教育実習期間の前半が教育実習Ⅰ（2単位）、後半が教育実習Ⅱ（2単位）に相当します。

**養うべき力と到達目標****確かな専門性**

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

**具体的内容：**

教育知識や技能を実習の場で活用する。

**目標：**

学校、生徒とかわりながら、教師の資質をはぐくむ。

**汎用的な力**

1. DP6. 行動・実践

教師の職業理解およびその実践力を身につける。

**学外連携学修**

有り（連携先：各自の実習校）

**授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）**

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

**成績評価****注意事項等**

原則として欠席は認められません。成績評価は実習校評価にウエイトを置く。

**成績評価の方法・評価の割合**

教育実習レポート

**評価の基準**

： 全学ルーブリックに基づき評価します。

100%

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

『中学校学習指導要領』改訂版（文部科学省）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められる。実習だけでなく、実習前の準備、実習後の振り返りにも十分に力を入れること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

時間： 実習期間中および実習前後

場所： 西館5階研究室

備考・注意事項： 教育実習事前事後指導にて対応します。

**授業計画**

第1回

**観察・参加実習**

実習ノートの作成

授業外学修課題にか  
かる目安の時間

4時間

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態、教師の支援、授業の流れ等について把握する。</li> <li>・生徒と共に活動することにより、生徒理解を図る。</li> <li>・学校現場を具体的に観察し、その様子をとらえる。</li> </ul>		
第2回	<p><b>指導実習</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導を通して指導のあり方を把握し、指導技術を身につける。</li> <li>・指導案を作成し、それに沿って実際に研究授業を行う。</li> <li>・学級での指導を通して、学級経営のあり方を把握する。</li> <li>・学校行事や生徒会活動、部活動等に参加し、その特質とあり方を把握する。</li> </ul> <p>※それぞれの実習校により、指導実習の内容は異なる。</p>	実習ノートの作成	4時間

授業科目名	<b>教職実践演習（中学校）</b>				
担当教員名	大槻雅俊・白瀬浩司				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立小学校長として地域の3中学校と小中連携の教育活動を推進するとともに、学校評議員として中学校教育の推進・運営に携わる。（1回～6回、10回、13回～15回） 私立中学・高校の教員として勤務する。（7～9回、11～12回）				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

中学校の教育現場に立つ者として、最小限の必要な資質・能力、及び教育実践力が身につけているかどうかを自ら確認します。その上で、自己課題を明確にして、その課題を自ら解決します。また、教員になる者としての自己の適性やよさに気づき、それを定着させ、さらにそれを向上させます。  
上記の学びを通して、自信と誇りをもって中学校の教員として実践的なスタートが切れるようにします。さらに、他者の実習経験から、実習の課題についてグループディスカッションを行い、学びを定着させます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- 2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

教育実習後の教師の資質定着のための知識、技能の確認  
教育実践能力の向上

#### 目標：

知識、技能、職業理解の定着化をはかり、教師としての資質を磨く。  
模擬授業の再構成を行い、他者評価、自己省察から課題発見の力をつける。

#### 汎用的な力

- 1．DP4. 課題発見
- 2．DP6. 行動・実践

実習体験後の自己省察、他者評価による課題発見  
実習後学びを再考し、教師として実践していく力を身につける。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

授業内課題	評価の基準
	: 独自のルーブリックに基づいて50点満点で評価します。
	50%
課題レポート	: 独自のルーブリックに基づいて50点満点で評価します。
	50%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

文部科学省 「中学校学習指導要領、及び同各等解説書」平成29年  
渋谷真樹他編著 「集団を育てる特別活動」 ミネルヴァ書房

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜3限

場所： 西館 4F個人研究室

備考・注意事項： 授業前後でも質問などがあれば対応します。

授業計画		授業外学修課題にかかるとする目安の時間
第1回	<b>オリエンテーションー教育実習の振り返りー（大綱）</b> 教職実践演習の意義を理解し、授業の進め方と評価方法の説明する。	教職実践について自己の考えていることをまとめる。 4時間
第2回	<b>教職の意義と教員の責務（大綱）</b> 教育実習体験や自分の生徒時代を省察し、教職の意義や教員の責務を再認識する。	教員の職務と責任についてまとめる。 4時間
第3回	<b>生徒指導①生徒の理解（大綱）</b> 教育実習体験を基に、生徒の理解とかかわり方について省察する。	多様な生徒を前にして、望ましい人間関係作りの要点をまとめる。 4時間
第4回	<b>生徒指導②教育諸問題（大綱）</b> 児童生徒を取り巻く諸問題の理解と対応について学ぶ。 (いじめ・不登校など)	いじめ、不登校などの教育諸問題の背景を考えまとめる。 4時間
第5回	<b>生徒指導③個性の尊重（大綱）</b> 生徒の多様性の尊重と教師の役割について概観し、ディスカッションを行う。	生徒の多様性を理解し、認めるうえでの要点を整理する。 4時間
第6回	<b>生徒指導④学級づくり（大綱）</b> 望ましい学級づくりについて、その意義と方法を学ぶ。	学級活動について調べ、生徒主体の活動の要点をまとめる。 4時間
第7回	<b>学習指導①授業とは（白瀬）</b> 授業づくりと教育実習体験についてその知識と実践方法を学ぶ。	教育実習ノートを再考し、課題レポートを書く。 4時間
第8回	<b>学習指導②主体的な授業（白瀬）</b> 授業づくりの方法（1） 児童生徒が主体的に学ぶ授業方法について学ぶ。	中学校のアクティブラーニングについて調べ、レポートを作成する。 4時間
第9回	<b>学習指導③発問と板書（白瀬）</b> 授業づくりの方法（2） 授業における指導技術の向上をめざす。	模擬授業を再考、修正し、指導案を書いておく。 4時間
第10回	<b>安全・安心で信頼される学校づくり（大綱）</b> 地域と家庭と学校の連携・協働について学ぶ。	生徒の安全確保のための取り組みをまとめる。 4時間
第11回	<b>模擬授業の展開①（白瀬）</b> 「学級活動」を想定した模擬授業及び授業研究を通して、指導力の向上をめざす。	振り返りシートを作成する。 4時間
第12回	<b>模擬授業の展開②（白瀬）</b> 「道徳」を想定した模擬授業及び授業研究を通して、指導力の向上をめざす。	「人権」についての課題レポートを作成する。 4時間
第13回	<b>コミュニケーション・ツールとしての学級通信（大綱）</b> 学級通信の今日的意味と作成方法を修得する。	課題として生徒や保護者に理解が得られる学級通信を作成する。 4時間
第14回	<b>保護者対応の意味と方法（大綱）</b> 生徒の保護者との適切な対応について、ロールプレイングを通して保護者対応の模擬体験をする。	保護者対応の要点をまとめる。 4時間
第15回	<b>まとめ：めざす教師像確立のための省察と自己課題（大綱）</b> 本演習で学んだ内容を振り返り、教育現場で活躍するための自己の強みや課題を整理する。	「なりたい教師像」について、授業内容を踏まえてまとめる。 4時間
第16回		4時間

授業科目名	<b>生徒指導・教育相談</b>				
担当教員名	中野 澄・網谷綾香				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	中野：中学校・教育委員会・文科省で生徒指導に関する実務経験（第1回～7回） 網谷：小中学校・適応指導教室・病院でカウンセラーとして勤務し教育相談を実施（第8～15回）				

開放科目の指示：「可・不可」

### 授業概要

学校教育における生徒指導と教育相談の位置づけ及び教育機関における体制について理解し、これらを実施するために必要な諸理論や手法について、体罰や懲戒の問題を含めて学ぶ。また、具体的な問題行動及び教育相談の事例を取り上げ、問題の理解を深めると共に、望ましい学級形成の在り方について考究する。そして、理論と事例研究の統合を図ることにより、生徒指導及び教育相談に関する現代的な課題を探索し、実際の教育活動の意義と実際的な取り組み方についての理解を深める。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	望ましい生徒指導・教育相談のあり方への理解を深め、教育現場での実践に活かすことができるようにする。	生徒指導・教育相談に関する知識・技能を身につけている。教育現場における生徒指導・教育相談の役割と重要性を理解している。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	生徒指導・教育相談を行う前提となる児童生徒（の問題について）の理解を深化させる。	児童生徒（の問題）の理解にもとづき、発達や学習を促進させるための関わりや指導・支援の方法について考えることができる。
汎用的な力		
1．DP9. 役割理解・連携行動		教職員間・家庭・地域・関係諸機関との連携のありかたについて理解している。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業の参加度	20%	: 授業への積極的参加，グループワークへの貢献度，授業態度などを総合的に評価する。
授業内課題	30%	: 授業内課題の達成率について評価する。
期末レポート	50%	: 生徒指導・教育相談のそれぞれについてレポートを課す（生徒指導25%，教育相談25%）。レポートは独自のルーブリックを用いて評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

「生徒指導提要」文部科学省 教育出版  
「生徒指導リーフ」国立教育政策研究所など。  
その他、授業内で適宜紹介する。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 中野：月曜2限 網谷：金曜4限

場所： 各教員の研究室または教室（授業時間の前後）

備考・注意事項： ・授業（毎回行うグループワーク）への参加度（20%）、授業中の課題達成度（30%）、レポート（50%）を、上記の到達目標の観点から採点し、総合的に評価する

## 授業計画

		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション：生徒指導・教育相談の概要</b>  生徒指導、教育相談とはなにかについて概要を知り、それらを学ぶ意味について理解する。授業の進め方について理解する。グループ編成を行う。	4時間
第2回	<b>学校現場における生徒指導の理論、位置づけと体制</b>  学校現場における生徒指導が学校全体の中でどのように位置づけられ、どのような体制で取り組まれているのか、そのシステムについて知ると同時に、どのような子ども観をもとに何を目標として実践されているかについて理解する。	4時間
第3回	<b>生徒指導と子どもの人権 体罰と懲戒</b>  子どもの人権を尊重した生徒指導とは何か、事例をもとに探求する。また、懲戒・体罰と教師の指導性について考察し、真の生徒指導とはどうあるべきかを探求する。グループワークを行う。	4時間
第4回	<b>生徒指導の理論と手法（1）—自己と向き合う</b>  個別の課題を抱え問題行動に走る子どもの背景について事例をもとに分析し、自己と向き合う生き方を子どもとともに探求していく手法を学ぶ。グループワークを行う。	4時間
第5回	<b>生徒指導の理論と手法（2）—対人関係を見直す</b>  子どもたちが人間関係づくりに稚拙である実態を知り、その関係を改善させていく手法を考究する。グループワークを行う。	4時間
第6回	<b>生徒指導の理論と手法（3）—学級集団づくり</b>  子どもたちが集団の中で起こる対立や葛藤によって個を鍛え育っていく事実を知り、集団づくりの大切さとその手法について探求する。グループワークを行う。	4時間
第7回	<b>学校・家庭・地域社会の連携</b>  学校が家庭や地域との連携して取り組んだ生徒指導事例をもとに、連携の大切さとその方法について考究する。	4時間
第8回	<b>教育相談の位置づけと体制、前提となるカウンセリングマインド</b>  学校教育の中でなぜ教育相談が重要な意味を持つようになったのか、その位置づけと体制について学び、受容・傾聴・共感といったカウンセリングマインドについて理解する。	4時間
第9回	<b>学校における教育相談と心理療法・カウンセリングの理論</b>  学校における教育相談において必要な心理療法・カウンセリングに関連する基礎的理論を学ぶ。	4時間
第10回	<b>教育相談の具体的な進め方における組織的取り組み・連携の必要性</b>  教育相談にあたって必要な組織的な取り組みの必要性と実際のあり方について理解する。	4時間
第11回	<b>児童生徒の不応答・問題行動の意味。発するシグナルSOSを見抜く目</b>  「子どもを見る眼」を鍛えるために用意された事例をもとに、その背景にあるもの、根本的な原因を理解しようとする姿勢について考究する。	4時間
第12回	<b>不登校・いじめ問題と教育相談及び地域の医療・福祉など連携の重要性</b>  不登校・いじめ問題について、その解決に向けた取り組みの事例をもとに、発達段階発達課題に応じた教育相談の進め方について知る。また、課題を学校だけで抱え込まず広く関係諸機関と連携することの重要性を認識する。	4時間
第13回	<b>発達障害の理解・援助と対保護者も含めた学校教育相談</b>  発達障害について基礎知識をおさえ、実際の支援事例の文献にあたる。	4時間



	発達障害についての理解を深め、その支援・援助のあり方と、子育てに悩む保護者も含めた学校教育相談の果たす役割について、考究する。		
第14回	<b>学校現場における教育相談活動の実際</b> 教育相談の事例をもとに、教育相談の望ましいあり方について考究する。グループワークを行う。	目指す教育相談のあり方について、整理する。	4時間
第15回	<b>実践事例研究とまとめ</b> これまでの学修内容を振り返り、望ましい生徒指導及び教育相談のあり方について考究する。	教育相談について学んだ内容を整理しレポートする。15回の授業全体から学んだことを復習する。	4時間

授業科目名	<b>栄養教育実習事前事後指導</b>				
担当教員名	弓岡仁美				
学年・コース等	1・2	開講時期	通年	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	学校栄養士として公立小学校に勤務。(全10回)				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

本授業は、2年間に亘って栄養教諭としての教育実習の意義や目的を理解し、実習のねらいにあわせて学校教育についての理解を深めることを目指す。教諭二種免許状取得のためのオリエンテーションから教育実習後の報告会まで、教育実習に必要な事項の事前確認と振り返りを中心に構成されている。1回生では、主に教職免許を取る心構えと2回生の実習報告会への参加の2回授業がある。2回生では、実習前の授業計画と実習後の報告を中心に8回の授業があり、2年間で合計10回の授業を行う。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育実習の意義、手続きについて理解する。	教育者としての実習について理解し、児童とのかかわりについて理解できる。
2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	栄養教諭の教育実習に必要な知識と技術について理解する。	栄養教諭としての専門的知識・技能を修得し、研究授業に対する準備ができる。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		教育実習に対して、自分に不足している知識及び技能について気づくことができる。
2 . DP6. 行動・実践		教育実習に対して積極的に考え、自ら行動することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

授業内課題	評価の基準
	： 毎回テーマに沿った課題を作成し、科目独自のルーブリックを用いて評価する。10点×7回の課題を提出する。
70%	
教育実習の成果発表	： 教育実習の成果発表の内容について、独自のルーブリックを用いて評価する。
20%	
授業への取り組み状況	： 全授業において、授業への積極的な参加や取り組み姿勢について独自のルーブリックを用いて評価する。
10%	

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

食に関する指導の手引～第一次改訂版～（文部科学省）

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。本授業は、栄養教育実習に行くための事前事後指導であるので、受講状況や態度によっては教育実習に参加できない可能性がある。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜3限

場所： 栄養第2研究室

備考・注意事項： それ以外の時間でも研究室に在室の場合にはいつでも質問に応じます。

授業計画		授業外学修課題にかかると見込まれる目安の時間	
第1回	<b>栄養教育実習の意義や目的及び概要について・教育実習依頼の手続き</b> 栄養教諭についての学科オリエンテーションを行う。 教務課の担当者より母校への教育実習の依頼手続きについて説明する。	栄養教諭免許取得を目指す心構えについてレポートを作成する。	3時間
第2回	<b>教育実習体験発表会</b>  2回生が実施した栄養教育実習の体験発表を聞き、終了後グループワークを行う。	次年度の教育実習に向けて、教育実習で取り組みたいことについてレポートを作成する。	3時間
第3回	<b>履修カルテの説明と記入</b>  履修カルテの概要について学び、記入可能な箇所について、各自が記入する。これによって、各自の実習前の履修状況や準備状況を確認する。	履修カルテを記入後、教職での学びを振り返る。	3時間
第4回	<b>教育実習の基本的事項と実習校での諸活動</b> 教育実習で理解する学校での教育活動について学ぶ。	各自の実習先についてレポートを作成する。	3時間
第5回	<b>人権教育</b>  教育実習に向けて、人権教育について講義を受ける。 教育実習先でどのような人権的配慮が求められるのかを各自が確認する。	教育現場における人権についてレポートを作成する。	3時間
第6回	<b>教育実習のための指導技術の習得</b>  教育実習での研究授業の進め方について学ぶ。	教育実習の目標についてレポートを作成する。	3時間
第7回	<b>学習指導計画と教育実習記録の意義と作成</b>  学習指導計画について、グループワークを行い、修正する。 教育実習ノートへの記入についてオリエンテーションを行う。	学習指導計画の作成および教育実習ノートを記入する。	3時間
第8回	<b>実習直前指導</b>  教育実習に行く心構えや実習校との打ち合わせ事項の確認を行う。	教育実習に向けて準備すべきことについて考える。	3時間
第9回	<b>教育実習内容の報告</b>  教育実習後、実習内容について発表する。	他の学生の実習報告を聞き、自己の課題について考察する。	1時間
第10回	<b>教育実習の成果・自己評価</b>  教育実習の成果を発表後、1回生を交えてグループワークにて振り返りを行う。	これまでの学びを振り返り、栄養教諭としての自己評価を行う。	1時間

912

授業科目名	<b>栄養教育実習</b>				
担当教員名	弓岡仁美				
学年・コース等	2	開講時期	通年	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	学校栄養士として公立小学校や学校給食センターに勤務				

開放科目の指示：「不可」

**授業概要**

栄養教諭は、児童に対して教育指導を行なう教員であり、その職務は「児童の栄養の指導及び管理をつかさどる」ことにある。本科目では、このことを認識したうえで、実際の教育現場において教育者としての能力を身につけるための実習を行なう。5日間という限られた時間の中で、自己の習得した理論や技術を適用し、果たして十分な効果が得られるか検証することを目指す。したがって、栄養教諭としてだけでなく、小学校及び中学校の教諭として、児童や生徒への対応や学校組織の一員としての役割などを実践から学ぶ科目である。

**養うべき力と到達目標**

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	学校における教諭の立場や役割についての理解	教育者として児童・生徒に関わり、一人一人の個性を理解できる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	学校教育現場における教育実践力	学校における栄養教諭の役割を理解し、食に関する指導を実践することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		自ら学んできたことを振り返り、自己の課題を発見することができる。
2．DP6. 行動・実践		研究授業に向けて積極的に行動し、授業実践ができる。

**学外連携学修**

無し

**授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）**

・実験、実技、実習

**課題や取組に対する評価・振り返り**

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価****注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

**成績評価の方法・評価の割合**

実習の記録および報告書

**評価の基準**

：教育実習の記録について、正確性、明確性、論理性、簡潔性、読みやすさ等の観点から4段階で評価する。

50%

実習先の評価

：実習先の指導教員によって、実習態度、マナー、教諭としての資質、実習記録等の観点から5段階で評価する。

50%

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

「食に関する指導の手引き-第一次改訂版-」/文部科学省

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、全体で45時間の学修が求められる。

体調管理に留意し、5日間の実習を行うこと。

事前に実習先校の先生と十分な打ち合わせを行い、しっかり準備を整えたうえで教育実習に望みましょう。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

時間：月曜3限

場所：栄養第2研究室

## 授業計画

第1回

## 学校での栄養教育実習（5日間）

栄養教諭二種免許取得のための5日間の教育実習を行います。

- ・学校経営や校務分掌に関する指導教諭等からの説明
- ・児童及び生徒への個別的な相談、指導の実習
- ・児童及び生徒への教科・特別活動等における指導の実習
- ・食に関する指導の連携・調整の実習

「私にとっての教育実習の意義」について考える。毎日、実習記録を記載するとともに、次の日の準備等を計画的に行う。

授業外学修課題にかかると自安の時間

10時間

授業科目名	<b>教職実践演習（栄養教諭）</b>				
担当教員名	大槻雅俊・弓岡仁美				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立小学校長として栄養教諭に対し、指導方法や児童理解、教材解釈などについて指導・助言を行う。(第2～10回) 学校栄養士として公立小学校や学校給食センターにて勤務。(第1回、第11～15回)				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

本授業は、栄養教育実習後、栄養教諭として最小限必要な資質・能力及び教育実践力が身につけているかどうか評価し、学生自身が教壇に立つものとしての自己課題を明確にし、それを克服しようとする意欲を持つことを目指す。これまでの栄養教諭に必要な学びの集大成として本授業が位置づけされており、栄養教諭免許取得者として自覚することを目的とする。グループワークなどを通して、自分に不足している力を発見かつ克服し、栄養教諭資格取得者に相応しい知識と技術を修得したことを確認する。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	栄養教諭として必要な知識技能	これまでの学びを振り返り、栄養教諭に必要な知識・技能を修得したことを確認することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	教職の意義や教員の役割、地域や家庭との連携	食に関する授業やイベントを企画・立案し、実施することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		栄養教諭として必要な資質、能力、実践力について、自己の課題を明確化するとともに、それを克服することができる。
2．DP9. 役割理解・連携行動		教員としての使命感や責任感をもち、社会性や対人関係能力を身につけ、実践することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内課題	40%	： 教員が授業内で指示したテーマに沿ったレポートや製作物を独自のルーブリックによって評価する。
課題レポート	40%	： 独自のルーブリックによって、授業の振り返りシートや課題レポートを評価する。
受講状況	20%	： 授業への積極的参加（発表や質問等）や受講態度（マナー、私語、姿勢など）を独自のルーブリックによって総合的に評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

参考資料等：必要に応じて資料やプリントを配布する。

参考図書：栄養教諭のための学校栄養教育論 補訂（医歯薬出版）  
食に関する指導の手引き（文部科学省）

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜3限  
場所： 栄養第2研究室  
備考・注意事項： メールでも受け付けます。  
yumioka@osaka-seikei.ac.jp

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかると自らの時間
第1回	<b>オリエンテーション（自己の課題を確認し、授業概要を理解する。）（弓岡）</b> 演習の進め方と評価方法について理解する。 履修カルテに必要事項を記入し、栄養教諭取得に向けて自らの課題について考える。	本授業における各自のテーマを書く。 4時間
第2回	<b>教職の意義と教員の責務（大槻）</b> 教育実習体験や自分の生徒時代を省察し、教職の意義や教員の責務を再認識する。	復習と次回の学習に向けて予習 4時間
第3回	<b>生徒指導①児童生徒の理解（大槻）</b> 教育実習体験を基に、子どもへの理解とかわり方について省察する。	復習と次回の学習に向けて予習 4時間
第4回	<b>生徒指導②教育諸問題（大槻）</b> 児童生徒を取り巻く諸問題の理解と対応について学ぶ。（いじめ・不登校など）	復習と次回の学習に向けて予習 4時間
第5回	<b>生徒指導③個性の尊重（大槻）</b> 子どもの多様性尊重と教師の役割について概観し、ディスカッションを行う。	復習と次回の学習に向けて予習 4時間
第6回	<b>生徒指導④学級づくり（大槻）</b> 望ましい学級づくり その意義と方法を学ぶ。	復習と次回の学習に向けて予習 4時間
第7回	<b>学習指導①授業とは（大槻）</b> 授業づくりと教育実習体験についてその知識と実践方法を学ぶ。	復習と次回の学習に向けて予習 4時間
第8回	<b>学習指導②主体的な授業（大槻）</b> 授業づくりの方法（1） 児童生徒が主体的に学ぶ授業方法について学ぶ。	復習と次回の学習に向けて予習 4時間
第9回	<b>学習指導③発問と板書（大槻）</b> 授業づくりの方法（2） 授業における指導技術の向上をめざす。	復習と次回の学習に向けて予習 4時間
第10回	<b>安全・安心で信頼される学校づくり（大槻）</b> 保護者や地域と学校との信頼関係の構築について学ぶ。	復習と次回の学習に向けて予習 4時間
第11回	<b>児童生徒および保護者への対応（食に関する個別対応など）（弓岡）</b> 学校給食における食物アレルギー等個別指導への対応方法について学び、ロールプレイによって理解を深める。	復習と次回の学習に向けて予習 4時間
第12回	<b>地域と家庭と学校の連携・協働①（企画・立案）（弓岡）</b> 地域の学童保育所と連携し、児童主体のクッキングを企画、立案する。	「クッキング」の運営マニュアルの作成 4時間
第13回	<b>地域と家庭と学校の連携・協働②（食育指導資料の作成）（弓岡）</b> 地域の学童保育所と連携した児童主体のクッキングに使用する指導資料を作成する。	指導資料を完成させる 4時間
第14回	<b>地域と家庭と学校の連携・協働③（実施）（弓岡）</b> 地域の学童保育所の児童へのクッキングを実施する。	クッキングの準備（食材発注、会場準備など） 4時間
第15回	<b>まとめ（弓岡）</b> 地域の学童保育所の児童へのクッキングを振り返り、検討する。 自己の栄養教諭としての資質能力について確認する。	最終レポートを作成する 4時間

授業科目名	<b>教育課程論</b>				
担当教員名	山本はるか				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

教育課程とは、生徒の学習経験を組織的に編成するために用意された教育計画である。本講義では、中学校・高等学校の学習指導要領の基本構造や特色について、学習指導要領の歴史的展開や社会状況の変化、背景にある教育思想や学力観・評価観を踏まえて考察していく。また、特色ある学校づくりと教育課程の開発について、具体例を踏まえながら、教育課程編成の現状と課題について考察を深め、課題を克服するための編成案を作成する。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育課程に関する基礎的な考え方・知識	教育課程の基礎的な考え方や知識を修得することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	教育課程を分析する力	教育課程に関する基礎的な考え方や知識を活用して、実際の教育課程の成果と課題を分析することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		教育課程編成に際して、教員が直面する課題を見出すことができる。
2．DP5. 計画・立案力		発見した課題の解決に向けて、教育課程編成案を作成することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

定期試験

#### 評価の基準

50% : 教育課程に関する基礎的な考え方や知識を修得できているかどうかを判断する。

授業内課題を含むレポート

50% : 教育課程に関する基礎的な考え方や知識を活用して、実際の教育課程を分析し、現状と課題について考察し、課題を克服するための編成案を作成することができるかどうかを判断する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編	・ 東山書房	・ 2018年
文部科学省	・ 高等学校学習指導要領（平成30年告示）	・	・ 年

### 参考文献等

田中耕治編著『よくわかる教育課程 第2版』ミネルヴァ書房、2018年

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日 3限



場所： 研究室（本館5F）

## 授業計画

		授業外学修課題にかかるとする時間
第1回	<b>オリエンテーション 現代の教育課程をめぐる課題</b> 教育課程の定義と、現代の教育課程をめぐる課題を知る。	予習シートの作成：学習指導要領、カリキュラム・マネジメント 4時間
第2回	<b>教育課程論の範囲、カリキュラム・マネジメント</b> これまで提案されてきた学習指導要領の変遷を概観する。カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえて、教育課程を捉え直すことの意義を知る。	予習シートの作成：経験主義、系統主義 4時間
第3回	<b>学習指導要領の変遷（1）経験カリキュラムと学問中心カリキュラム</b> 1940～1960年代の教育課程の特徴を知る。	予習シートの作成：生きる力、確かな学力 4時間
第4回	<b>学習指導要領の変遷（2）生きる力と確かな学力</b> 2000年代以降の教育課程の特徴を知る。	予習シートの作成：PISA、資質・能力 4時間
第5回	<b>学習指導要領の変遷（3）現代に求められる学力</b> 系統主義を中心とした教育課程における思想的な背景、構造について学ぶ。	予習シートの作成：総合的な学習の時間 4時間
第6回	<b>カリキュラム構成（1）総合学習</b> 総合的な学習の時間を事例として、教科外の視点から、カリキュラムの編成の在り方を学習する。	予習シートの作成：道徳 4時間
第7回	<b>カリキュラム構成（2）道徳の教科化</b> 道徳を事例として、教科と教科外の区分や、教科として成立させることの意義と課題を知る。	予習シートの作成：教育目標、教育評価 4時間
第8回	<b>カリキュラム開発（1）目標論・評価論とカリキュラム</b> 目標と評価の設定が、カリキュラム開発に与える影響を知る。	予習シートの作成：教材、発問 4時間
第9回	<b>カリキュラム開発（2）教材論・発問論とカリキュラム</b> 授業づくりの視点から、授業とカリキュラムのつながりを知る。	予習シートの作成：素朴概念 4時間
第10回	<b>カリキュラム評価（1）子どもの学びのメカニズムとカリキュラム、素朴概念</b> 子どもの視点を踏まえてカリキュラムを開発することの意義を知る。	予習シートの作成：試験、相対評価、絶対評価 4時間
第11回	<b>カリキュラム評価（2）教育評価の変遷と3つの機能</b> 教育評価の考え方の変遷を知る。	予習シートの作成：パフォーマンス評価、ルーブリック 4時間
第12回	<b>カリキュラム評価（3）新しい評価法、パフォーマンス評価、ルーブリック</b> 新しい教育評価の方法を知る。	予習シートの作成：外国語活動、接続 4時間
第13回	<b>新しい教育課程の課題（1）英語の教科化をめぐって</b> 小学校段階における英語の教科化を題材として、教育課程の接続に関わる成果を課題を知る。	予習シートの作成：夜間中学校 4時間
第14回	<b>新しい教育課程の課題（2）夜間中学校の取り組み</b> 夜間中学校における教師の取り組みを知ること、学習者自身の経験を相対化する。	定期試験に向けて、これまでの学習を振り返る 4時間
第15回	<b>総括と質疑応答</b> 教育課程に関する基礎的な考え方や知識を踏まえて、実際の教育課程を分析する。	教育課程分析を完成させる 4時間